

チッチェーノ・チッタに初参加 小学生が職業体験

古河電工パワーシステムズは8日、横浜市の美しが丘公園で開催された「チッチェーノ・チッタ2025」(主催・チッチェーノ・チッタ運営委員会)に参加し、小学生が職業体験する企業ブースを出展した。

「チッチェーノ・チッタ」は、小学1年生〜6年生が「子ども市民」として実際の仕事を体験できるイベントで、18年から開催されている。会場を仮想の街に見立て、参加する小学生は市役所で住民登録し、ハローワークで就職先を選んでから、子ども市民として各ブースで仕事を体験するという本格的な内容だ。



会議の風景



職業体験した子どもたち

職業の種類は豊富で、カレー屋やカフェなどの飲食店から、本屋、花屋、ネイルサロン、消防署、警察署など65の職種から選ぶことができる。古河電工パワーシステムズは、初のメーカー枠としての参加となった。

同社は、「地域貢献」「安全」「つづくをつくる自社技術」をベースに、子ども市民と同社社員が協力し、「サステナブル安全会議ワークシヨップ」を実施し、安全唱和の決定まで行った。子ども市民が集まると、簡単な会社説明の後、「同社自慢の技術紹介」を技術開発本部の芦田恭典課長、「安全会議」を全社安全担当の小山雄大氏が紹介・実施した。

芦田課長は、「FEP S9」(日々の暮らしを支える自社技術)を紹介した。鉄道は運行を支える溶接技術や送配電線を支える技術などを説明し、電線を接続する技術の実演では自社の接続材料と圧縮工具を使用した。小山氏は、古河グループの「ゼロ災への誓い」を小学校の校歌にたとえて、子ども市民たちと全員で唱和した。安全会議

では子ども市民同士で話し合い、オリジナルの安全唱和「仲間を大切に、ヨシ!」を決定した。仕事体験した子どもは、「電気や安全など、いつもは体験できない職業を選んだ」と古河電工パワーシステムズを選んだ理由を語った。また、仕事体験を終えたと、「電線が太くて驚いた。会議はちょっと難しかったけど発言できた」といった声が聞かれた。

同社広報担当の高森恵氏は「チッチェーノ・チッタ」へ初参加したきっかけについて、「地域に向けて社会貢献がしたい。電力インフラを支えるメーカーとして、小学生たちに電気や安全の大切さを知ってもらうと共に、私たちも子ども市民の皆さんに学ばせてもらいたい」と語った。

同社広報担当の高森恵氏は「チッチェーノ・チッタ」へ初参加したきっかけについて、「地域に向けて社会貢献がしたい。電力インフラを支えるメーカーとして、小学生たちに電気や安全の大切さを知ってもらうと共に、私たちも子ども市民の皆さんに学ばせてもらいたい」と語った。

同社広報担当の高森恵氏は「チッチェーノ・チッタ」へ初参加したきっかけについて、「地域に向けて社会貢献がしたい。電力インフラを支えるメーカーとして、小学生たちに電気や安全の大切さを知ってもらうと共に、私たちも子ども市民の皆さんに学ばせてもらいたい」と語った。